

北部呉語の授受構文にみられる介詞の史的变化

三木 夏華

(京都大学大学院)

以苏州为中心的北部吴语中有两种给与句，一种使用“辣”字，另一种则使用“拨”字。目前“拨”字句在大部分地域取代了“辣”字句，与此同时双宾句的句法形式和功能也产生了变化，其原因在于“辣”与“拨”二者意义上的差异；“辣”相当于普通话的“在”，用以表示动作到达的处所，“拨”相当于普通话的“给”，用来引进交付或转递的接受者。本文使用18世纪至20世纪初期的资料，来讨论双宾句的演变过程，并对其句法功能扩大的原因进行深入的考察。

1. はじめに
2. 授受構文の枠組
 - 2.1. L式授受構文
 - 2.2. P式授受構文
 - 2.3. PL式授受構文
3. L式授受構文からP式授受構文への移行
 - 3.1. 移行年代
 - 3.2. 移行に伴う語法上の变化
4. 東南方言全体における授受構文との比較
5. 現在の授受構文の意味特徴
6. 結論

1. はじめに

中国語において、普通话の“给”に相当する事物の受領者を導く介詞を用い、授与に関する内容を表す構文を「授受構文」と定義する。授受構文の構造、及びそこに用いられる介詞の形態には、方言により極めて大きな地域的差異を認めうる事が、すでに吉川雅之（1999）などにより示されてきた。蘇州及びその周辺に分布する北部呉語の場合、18世紀の文献資料では「存在する」の意味の動詞から派生した“辣”[laʔ]を用いる授受構文が多数を占めていた。ところが、19世紀に入ると「与える」の意味の動詞から派生した“拨”[pəʔ]を用いる授受構文が形成される。更に、この二つの構

文の間には“撥辣”[pə? la?]を用いる構文も存在する。“辣”を用いた構文をL式授受構文、“撥辣”を用いた構文をPL式授受構文、“撥”を用いた構文をP式授受構文と呼ぶことにする。本稿では18世紀から20世紀初頭の呉語の文献資料を通し、L式からPL式、そしてP式授受構文への変化について機能や意味の面から考察し、その上で現在の上海方言の調査に基づき、現在の授受構文の用法、形式について明らかにしたい。本稿で用いた主な文献資料は以下の10種類である。

- ①沈蕢漁四種曲（沈起鳳¹⁾著。古香林藏板）略称“沈”。
- ②綴白裘新集合編（乾隆42年校訂重鐫。鴻文堂增輯。1987年、台湾学生書局善本戲曲叢刊影印本）略称“綴”。
- ③繡像芙蓉全伝（陳遇乾著。道光16年重刊本²⁾）略称“芙”。
- ④John Macgowan, “A Collection of Phrases in the Shanghai Dialect,” *Journal of the Shanghai Literary and Scientific Society*, No.1, 1858, Shanghai 略称“Mac”。
- ⑤繡像文武香球（文西堂藏板。同治2年刊本）略称“文”。
- ⑥海上花列伝（韓邦慶著。1892～94年刊行。1982年、人民文学出版社排印本）略称“海”。
- ⑦馬太伝福音書上海口音（1895年、上海美華書館）略称“馬太”。
- ⑧馬可伝福音書上海口音³⁾（1904年、上海美國聖經会）略称“馬可”。
- ⑨九尾亀（張春帆著。1906～1910年刊行。1991年、中国近代小説大系、百花洲文芸出版社排印本）略称“九”。
- ⑩土話指南（1908年、上海土山湾慈母堂）略称“土”。

これらの資料から引用した用例の訳文は、便宜上、普通話に逐語訳したものであり、普通話として語法上正しくないものも含まれる。

また、本稿で使用する記号は以下の通りである。

V：動詞 DO：対格の目的語 IO：与格の目的語

L：“辣”に代表される、L式授受構文に用いられる介詞。同系（声母[l-]）の語形を表記した“拉”、“来”等も含む。

P：“撥”に代表される、P式授受構文に用いられる介詞。同系（声母[p-]）の語形を表記した“本”、“不”、“把”等も含む。

PL：“撥辣”に代表される、PL式授受構文に用いられる介詞。同系の語

形を表記した“拨拉”“本拉”等も含む。

2. 授受構文の枠組

この節では先に述べた三種の授受構文（L式、P式、PL式）の形式について簡単に紹介しておく。

2.1. L式授受構文

この構文で用いられる介詞“辣”は、現在蘇州及びその周辺地域の呉語では[lɑʔ]、[lɔʔ]等と入声の語形で現れる。18世紀から20世紀後半の呉語資料では“拉”、“来”の文字で表記され、舒声で読まれていた可能性がある。本来は例文1)のように普通話の動詞“在”に相当し、「ある」、「存在する」を意味するが、介詞としての機能も持ち、動作の結果到達する場所や方向を導く（例文2、3参照）。

- 1) 侬个作场拉啥地方？ — 侬个作场拉后门大街上（土 p.22）
（你的作坊在哪儿？ — 我的作坊在拉后门大街上）
- 2) 第个鱼安拉鱼篮里秤秤看有几好分量（Mac p.91）
（这个鱼放在鱼篮里，秤秤看有多重）
- 3) 第只船因为风潮搁在拉海滩上（Mac p.8）
（这条船为了风潮搁住在拉海滩上）

“辣（拉、来）”を用いる授受構文は2種類あり、それぞれをL1、L2式と名づけると以下のように分類できる。

L1：V + L + IO

（DOを含まない例や、処置文、受動者主語文の形式上、DOが動詞の前に出される例が多い。）

- 4) 人对依讨，要拨拉伊（人家向你讨，要给他）（馬可 5 章）
- 5) 担两部车子分拉侬两个人（担＝把）（土 p.75）
（把两辆车子分给我们两个人）
- 6) 一根扁担交拉你（一根扁担交给你）（沈・《才人福》16回）

L2：V + DO + L + IO

- 7) 侬要发三百钱轿钱拉伊拉（你要发三百块轿钱给他们）（Mac p.40）
- 8) 勿要多话，就付银子拉我（不要多说，就付银子给我）（土 p.20）
- 9) 难道认真叫我寄信拉王公子弗我？（沈・《伏虎韜》9回）

(难道我很诚意地寄信给王公子也不成?)

2.2. P式授受構文

この構文で用いられる“拨”[pəʔ] (異表記“本”、“把”)は、前述したように本来「与える」の意味の動詞で、普通話の“给”に相当する。

10) 陆里来几花洋钱去拨俚? (哪来这么些洋钱去给他?) (海14回)

11) 辛俸拨依八块洋钱, 衣裳末另外再拨依 (Mac p.41)

(辛俸给你八块洋钱, 衣服呢另外再给你)

“拨”は介詞として事物や伝達の受け手を導き、授受構文に用いられる。

P式授受構文は3種類あり、それぞれP1、P2、P3式と名づける。

P1: V + P + IO

(L1式と同様、DOが構文中に含まれないか、動詞の前に出される例が多い。)

12) 倪靠仔耐格福氣, 嫁拨仔耐 (我靠着你的福氣, 嫁給了你)

(九76回)

13) 我就拿个二少爷交代拨耐 (我就把这二少爷交给你) (海57回)

14) 我跟子大爷来烧香个, 香烛交本拨 (笑2回)

(我跟着大爷来烧香的, 香烛交给你)

P2: V + DO + P + IO

15) 请侬分点油拨侬 (请分点油给我们) (馬太25章)

16) 到倪搭来, 托耐刘大少带声信拨俚 (九6回)

(到我这里来, 托你刘大少捎个口信给他)

P3: V + P + IO + DO

17) 同伊住拉一个天井里, 有一个邻舍, 是个爽快人, 听见伊勿管妹妹个事件, 气极, 就教伊妹妹走过来, 借拨伊一石米, 还有几两银子 (跟他住在一个天井里, 有一个邻居, 是个爽快人, 听见他不管妹妹的事件, 气极, 就叫他妹妹走过来, 借给他一石米, 还有几两银子)

(土 p.76)

18) 说四老爷该个疮, 就是倪搭过拨俚毒气 (海58回)

(说四老爷这个疮, 就是我们这儿过给他毒气)

2.3. PL 式授受構文

前節に挙げた文献上には次の二種類が見られる。

PL 1 : V + PL + IO

- 19) 下一个月, 来个六十包洋布味, 付拨拉别个客人 (土 p.50)
 (下一个月, 来六十包洋布呢, 付给别的客人)
- 20) 个个银子换拨拉~~那~~之罢 (这个银子换给你们吧) (土 p.90)
- 21) 唉, 龙观保, 悟到底阿肯拿故个香球送本拉我里小姐? (文6回)
 (喂, 龙观保, 你到底肯把这个香球送给我们的小姐吗?)

PL 2 : V + DO + PL + IO

- 22) 舜因个儿子不肖啵, 传位拨拉禹 (Mac p.177)
 (舜由于儿子不肖, 传了帝位给禹)
- 23) 落雨拨拉有义气啵没义气个人 (馬太 5 章)
 (下雨给有义气和没义气的人)

3. L 式授受構文から P 式授受構文への移行

2 節で述べた三種の授受構文がいつ、どのように「L 式→PL 式→P 式」と移行していくのか明らかにするため、1 節で挙げた文献資料を用いて以下の表にまとめた。資料①～③、⑤、⑥、⑨は蘇州方言が用いられ、④、⑦、⑧、⑩は上海方言資料であるため、ここでは方言別に二種類に分けて作成する。表内の数字は用例数である。また、L3、PL3 式は資料上に存在しないので、括弧で括る。

表 1 [蘇州方言資料]

		① 乾隆 年間	②綴 1777 年	③美 1836 年	⑤文 1862 年	⑥海 1892 ~ 94 年	⑨九 1908 ~ 10 年
L1	V + L + IO	17	33	30	4	10	—
L2	V + DO + L + IO	11	27	9	4	—	—
(L3)	V + L + IO+ DO	—	—	—	—	—	—
PL1	V + PL + IO	—	1	3	11	1	1

PL2	V + DO + PL + IO	—	—	—	—	—	—
(PL3)	V + PL + IO + DO	—	—	—	—	—	—
P1	V + P + IO	—	2	1	4	38	30
P2	V + DO + P + IO	—	—	—	—	6	7
P3	V + P + IO + DO	—	—	—	—	3	—

表2 [上海方言資料]

		④ Mac 1858年	⑦馬太 1895年	⑧馬可 1904年	⑩土 1908年
L1	V + L + IO	8	8	8	49
L2	V + DO + L + IO	7	8	7	14
(L3)	V + L + IO + DO	—	—	—	—
PL1	V + PL + IO	5	4	1	7
PL2	V + DO + PL + IO	2	2	1	2
(PL3)	V + PL + IO + DO	—	—	—	—
P1	V + P + IO	—	2	3	9
P2	V + DO + P + IO	—	6	3	7
P3	V + P + IO + DO	—	2	—	2

また、上記の表からL式、PL式、P式の使用頻度を計算すると以下のようになる（表内の数字はパーセントである）。

	蘇州方言資料						上海方言資料			
	①	②	③	⑤	⑥	⑨	④	⑦	⑧	⑩
L式	100	95	90	35	17	0	68	50	65	70
PL式	0	2	7	48	2	3	32	19	9	10
P式	0	3	3	17	81	97	0	31	26	20

以上のデータから導き出される結果を移行年代と語法上の変化に分けて論述する。

3.1. 移行年代

蘇州方言において、資料①から③ではL式授受構文の使用頻度が圧倒的に高く、それに対し、P式授受構文はほとんど現れない。一方、資料⑥、⑨においてはP式授受構文に用例が集中し、その反面L式は使用頻度が減少している。よって、L式授受構文は19世紀前半まで多く用いられたのに対し、P式授受構文は19世紀末から主流となったことが明確に分かる。PL式は資料①、②では用例がほとんど無いが、資料⑤において頻度が最も高い。恐らく、PL式はL式からP式へ移り変わる過程に生じたものと推定され、過渡期である19世紀中頃に最も勢力が強かったことが窺える。

一方、上海方言では資料④においてP式は全く見られず、資料⑦から現われ始めている。更に19世紀後半の上海方言の文法書 Joseph Edkins, *A Grammar of Colloquial Chinese as exhibited in the Shanghai Dialect, Second Edition*, (Shanghai: Presbyterian Mission Press, 1868)にもP式は載せられておらず、L式のみが出現する。よって、蘇州方言と同様、19世紀末からP式授受構文への交替が始まったと推測できる。ただし、上海方言では19世紀末から20世紀初めの資料においてP式の使用頻度は2割から3割に止まり、それは蘇州では19世紀末以降、P式が圧倒的に多かった事実と大きく異なる。周知の通り⁴⁾、上海方言は19世紀中期以降、様々な方言の影響を受け発展してきたが、授受構文のL式からP式への移行は、蘇州及び周辺のP式使用地域の影響によるものと考えられる⁵⁾。

また、各資料のジャンル、登場人物による差異にも配慮してみると、次のような可能性が予想される。

a) 上記の蘇州方言資料は主に小説、戯曲であり、方言は会話の部分のみに用いられているが、登場人物による表現の差はないだろうか。

b) 上記の上海方言の文献資料は外国人により編纂された会話文集と聖書の翻訳本であるが、会話文集では学習を念頭に置いた偏りのある編集がなされていないか。聖書では地の文と会話文とに違いは見出せないか。

調査の結果、a)、b) どちらにおいても顕著な差異は見出せなかった。例

えば、⑥の『海上花列伝』では同じ蘇州方言でも都市部を代表する男性達の方言と地方出身の芸者の方言とに大きく二つに分けられるとされるが⁶⁾、授受構文の介詞に関しては特に違いは認められない。地の文と会話文との差や作品のジャンルの違いによるも影響も無かったと思われる。

3.2. 移行に伴う用法、構文形式の変化

前節で用いた10種類の資料の用例からL式授受構文からP式授受構文への移行に伴う用法の変化について分析する。まず、動詞に着目すると、L式授受構文で使われるのは‘送’、‘賣’、‘交’、‘撥’、‘还’、‘借(貸す)’などの授与を表す動詞に限られる(例4～9参照)。動詞が授与以外の意味を表す場合は⁷⁾、普通話の“替”に相当する介詞、“搭(忒)[tɑʔ]”、“替[tʰi]”を用いて表現できるが(例24、25)、“辣(拉/来)”を使う例は一貫して見られない。

24) 我要依忒我买两个帽子(我要你替我买两个帽子)(Mac p.87)

25) 我就差人到各处去, 替依寻个只马(土 p.40)

(我就差人到各处去, 替你找这个马)

これは“辣(拉/来)”は本来の機能が動作の到達点を導くことであった為、移動の意味を含む授与動詞とは結びついて、それ以外の意味の動詞とは組合すことが難しかった為と考えられる。

一方、P式授受構文で用いられる動詞も授与を表すものが大半を占めるが、19世紀後半以降の文献からは授与以外の意味を持つ動詞を用いる例が見られ始める。

26) 方大少, 阿肯买拨倪介?(九6回)

(方大少, 你肯不肯买给我?)

27) 倪收末收仔耐五千洋钱, 阿要写张借票拨耐?(九38回)

(我收也收了你五千洋钱, 要不要写张收据给你?)

この現象から推測しうるのは、“辣(拉/来)”は事物の移動の到達点を導く機能以上に発展しなかったのに対し、“拨”は19世紀末以降、動詞本来の意味により「事物を受領者に与える」から「利益を受益者に与える」へと機能を拡大させることが可能になり、授与動詞以外の動詞と組合せて「…の為に～してあげる」の意味を表すことが出来るようになったことであ

